

「そのお身体では、むりでございます。われわれが行つて、お詫^わびをして参りますから、殿さまは、休んでいてください。」

と、とめたのですが、ききいれず、出かけました。

玉光堂ぎよつこうどうの前まで来た殿さまは、土下座し、お地藏さまに対して深くお詫^わびをし、ねんごろに供養をいたしました。

そのかいあつて、その後、日ごとに殿さまの病状は回復し、元気になりました。お地藏さまに申し訳のないことをしたと、葵あおいの御紋ごもんを入れた六枚の鬼瓦おにがわらをふくめ、玉光堂ぎよつこうどうの屋根がわらを寄進きしんしたということです。